

特定課題セッションⅢ 「社会福祉関係専門職の養成教育、およびその研究内容と方法における、課題と展望」・・・その養成教育は現代日本社会の要請に対応できているか・・・

コーディネーター：川廷 宗之（大妻女子大学）

（趣旨）

この特定課題セッションの趣旨の要点は以下の如くであった。①社会福祉専門職養成教育の研究に関して、単に実習教育の研究だけではなく、その教育課程の全体像や、ディプロマ・ポリシーを前提とした、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの内容を始め、学習主体であるはずの学生に関する分析研究や、教育方法技術や、教育史の研究など、色々とありえる。②学生たちの進路志望の影響する、高等教育（大学教育）における社会福祉分野の福祉専門教育自体が、学生たちに魅力的かつ有効なのかを問う。③これらを踏まえて、教育実践に有効な寄与が可能な研究方法について考えるというものであった。

（研究報告の要旨）

この特定課題セッションはある意味で初回の導入的な課題を整理する段階と考えていたが、それに適切に対応する報告があった。第1報告は、名古屋学院大学の山下匡将会員による「社会福祉専門職養成教育研究の動静および今後の課題」についての報告であり、「福祉」「教育」というキーワードで検索した過去の論文内容を分析したものであった。この結果、この社会福祉教育分野の教育研究が量もまだ少なく分野も実習に偏り、提言に留まる研究も少なくなく研究方法に改善が必要である点が指摘された。

第2報告は、日本福祉大学の岡多枝子会員による「福祉系高校から福祉系大学への接続」である。広い意味では、アドミッション・ポリシーに関する研究である。この研究では、高校生の意識調査を踏まえて、入学動機に出身校の種別による違いや性差による違いが見られる点を明らかにしたほか、社会福祉関連の資格教育を目指す大学と、教養として福祉を学ぶ大学とへのニーズの違いが明らかにされるなど、アドミッションポリシーの内容や実践に大きな寄与をする報告がなされた。

第3報告は、北海道医療大学の志水幸会員による「社会福祉専門職養成教育における教養教育の意義」であり、ある意味ではカリキュラム・ポリシーに関する報告である。この報告は先行する論文をベースとする研究であるが、その中で、表題の『教養教育』を大きく二つに分け、「基礎学」として「専門基礎教養」（教養と専門の連携）、「人間形成」として「共通基礎教養」（教養の独自性）として整理した。その過程で、先行議論からは抽出されなかった「専門教養教育」（教養・専門に共通する課題）の存在を指摘し、そのスキルやコンピテンス養成に係る効果的な教育方法の選択（教授法）を新たな課題として提起して

いる。社会福祉専門教育としてカリキュラムポリシーを考え教育課程を編成すると、つい専門教育に偏り、ほぼ半分の 61 単位を締める「基礎学」と「人間形成」の内容に配慮が出来ないという問題の重要性を指摘していて、興味深い。

第4報告は、天理大学の南彩子会員による「社会福祉教育における教育評価の方法と課題」であり、ある意味ではデュプロマ・ポリシーに関する方向である。この研究では、デュプロマ・ポリシーを想定しつつ、その達成度をループリックを用いて評価を試みた実践と課題に関する貴重で興味深い報告であった。結果として、①学習者自身が、評価のプロセスを通して、目標への到達度や変化を認識・内省できる点 ②教育者側の効果として、結果の視覚化により効果や課題を学習者とともに確認できる点 ③統計的な検定や、数量化の限界を補う定性叙述的評価を併用することが必要である点、としてまとめられた。将来、社会福祉実践に従事するという前提で、教育効果を測定するという課題は困難では有るが、教育研究としてはきわめて重要なテーマであり、今後の動向を注目したい。

(課題研究としてのまとめ)

以上の様に、従来の枠を少し超える体系的な課題研究を行えたことは応募者の適切な判断とご努力の賜物であった。また予想以上に多かった応募や参加者の方々からも貴重な意見があったことを付記しておきたい。しかし、趣旨に挙げた研究課題に答えが出せたという段階ではなく、まだ研究が緒についた段階であろう。研究で使用する用語の確定や、先行研究の蓄積、教育学研究での先行研究の確認など、残された課題は少なくない。また、福祉教育研究は、今回の課題の挙げた範囲にとどまるものでもない。今後、出来ればこの種の課題研究を繰り返していくことで、内容が深められていくことを期待したい。